

品種 しゅんれい
 チクゴイズミ

月	11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月																
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中															
栽培管理	土づくり(PH調整) 排水溝の整備			排水溝の整備			麦心み			麦心み			追肥・土入れ			麦心み			小土入れ 麦穂肥れ			排水対策			適期 水分25%以下													
生育	播種期			発芽、分けつ開始期			分けつ期			幼穂形成・節間伸長期			出穂期・開花期			登熟期			収穫期																			
病害虫防除	種子消毒 播種後の除草剤散布			品種特性 <table border="1"> <tr> <th>品種名</th> <th>出穂期</th> <th>成熟期</th> <th>稈長</th> <th>耐倒伏性</th> </tr> <tr> <td>しゅんれい</td> <td>4月8日</td> <td>5月20日</td> <td>85cm</td> <td>やや強</td> </tr> <tr> <td>チクゴイズミ</td> <td>4月12日</td> <td>6月1日</td> <td>88</td> <td>やや強</td> </tr> </table>			品種名	出穂期	成熟期	稈長	耐倒伏性	しゅんれい	4月8日	5月20日	85cm	やや強	チクゴイズミ	4月12日	6月1日	88	やや強	生育期の除草剤散布									1回目 赤かび病 2回目 うどんこ病 農薬飛散に注意しましょう							
品種名	出穂期	成熟期	稈長	耐倒伏性																																		
しゅんれい	4月8日	5月20日	85cm	やや強																																		
チクゴイズミ	4月12日	6月1日	88	やや強																																		

1. 播種前のほ場準備

- ① 麦は酸性土壌を嫌います。適正なpHは、6.0～7.0です。特に、大麦はpH5.5以下で生育障害が発生します。
- ② 地力維持のため稲ワラの鋤込、鶏糞、牛糞堆肥施用に努める。
- ③ 麦、大豆の連作ほ場では、ようりん等のリン酸肥料の積極的な投入を図りましょう。(粒状ようりん10kg/10a)
- ④ 耕土を深くし、根群域の拡大を図る。
- ⑤ 播種前に必ず土壌診断を実施し、必要に応じてミネラルGや石灰等の土壌改良資材を施用する。

2. 排水対策

麦は湿害を受けやすい！排水対策を徹底して下さい。

- ① 弾丸暗きよを必ず行い、田の周囲には、排水溝を作る。
- ② 畦溝と田溝の連結と、排水溝の整備を徹底して、ほ場の水がただちに流れ出るようにしておく。
- ③ 大麦は、湿害を受けやすいため、排水良好なほ場を選び、排水対策を徹底する。

3. 播種期と播種量 ～適期播種に努めましょう!!～

(10a当り)

品種名	11月15～20日	11月20～25日	11月25～30日	12月1～10日
しゅんれい	-	5～6kg	6～7kg	8～10kg
チクゴイズミ		5～6kg	6～7kg	(12月1～5日) 8～9kg

- ※全面全層播は、3kg程度播種量を増加し、播種後必ず畦立てを行う。
- ※麦の播種適期はしゅんれい11月25日～12月5日、チクゴイズミ11月20日～30日。
- ※極端な浅播きや深播きはしない。

4. 施肥基準

(10a当り)

品種名	基肥	1月中旬～2月上旬	3月上旬	4月中下旬	成分値(kg) (N-P-K)
		追肥	穂肥	穂揃期追肥	
しゅんれい	ベスト化成 444 40kg (14-14-14)	NK2号 15kg (16-0-16)	-	-	(8.0-5.6-8.0)
チクゴイズミ		NK2号 20kg	NK2号 15kg	硫安 10kg (21-0-0) 又は 尿素 5kg (46-0-0)	(13.3-5.6-11.2) (13.5-5.6-11.2)

- 大豆跡地では、基肥を基準量より減らす。
- 穂肥は生育状態に応じて時期、量を決める。しゅんれいは穂肥を施用しないこと。
- 追肥後は土入れすることで、肥料の効果が速やかに出るため、**施用後必ず土入れを行う。**

追肥一発肥料使用の場合

(10a当り)

品種名	基肥	1月中旬～2月上旬	3月上旬	4月中下旬	成分値(kg) (N-P-K)
		追肥	穂肥	穂揃期追肥	
チクゴイズミ	ベスト化成 444 40kg	グッドB506 30kg (25-0-6)	-	-	(13.1-5.6-7.4)

5. 病害虫対策

○種子消毒

	対象病害虫	農薬名	処理方法 (種子重量の)	使用量
大麦	斑葉病類 黒穂病類	トリフミン水和剤	0.5%種子粉衣	種子10kgに50g
				種子10kgに50g
小麦	斑葉病類 黒穂病類	トリフミン水和剤	0.15%種子粉衣	種子10kgに15g
				種子10kgに15g

○赤かび病防除

(10a当り)

	薬剤名	希釈倍率	散布量	散布時期
大麦	トップジンM水和剤	1,000倍	60～150ℓ	1回目 出穂期から12～14日後(4月中下旬)
	トリフミン水和剤	2,000倍		2回目 第1回散布の1週間後
小麦	トップジンM水和剤	1,000倍	60～150ℓ	1回目 開花期(4月中下旬)
				2回目 第1回散布の1週間後

※大麦はトップジンM水和剤で2回防除出来ません!!

6. 雑草防除

①播種前(雑草が多い場合)

除草剤名	薬量	希釈水量	使用時期	使用方法
ラウンドアップ マックスロード	200～500ml	通常散布 50～100ℓ 少量散布 25～50ℓ	耕起前又は出芽前 (雑草生育期)	雑草茎葉散布
ブリグロックスL	600～1000ml	100～150ℓ	播種前又は播種後出芽前 (雑草生育期)	

②播種直後～出芽前

(10a当り)

除草剤名	薬量	希釈水量	使用時期	・砂壌土・壤土の場合 は薬害が出やすいため、 登録の範囲内で 薬量を減らす。 ・砂土では使用しない。
クリアターン乳剤	500～700ml	70～100ℓ	播種直後 (雑草発生前)	
ボクサー	400～500ml	70～100ℓ	播種後～ 麦2葉期まで	
リベレーターフロアブル	60～80ml	100ℓ	播種後～麦3葉期 (雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)	

- 極端な浅播きをすると薬害をおこす恐れがあるので、播種深度が3cm以下にならないように播種する。(ばら撒きを除く)
- 播種後の土壌が大きすぎると土壌表面に均一に散布する事ができないので効果が劣る。
- 処理直後の降雨が予想される場合は、薬害の可能性が高くなるので降雨をさけて処理する。

③生育期(1月以降雑草の発生が多い場合、以下の防除を行う)

(10a当り)

発生草種	除草剤名	薬量	希釈水量
ヤエムグラ、カラスノエンドウ、ノミノフスマなどの広葉雑草	アクチノール乳剤	100～200ml	70～100ℓ
スズメノテッポウなどのイネ科雑草 ヤエムグラ、カラスノエンドウ、トゲミノキツネノボタンなどの広葉雑草	ハーモニー75DF水和剤	5～10g (カズノコグサに対しては10g)	100ℓ

- 周辺に野菜等、他の作物がある場合はドリフトに注意する。
- アクチノール乳剤は、1月下旬～3月上旬、ヤエムグラ4葉期までに散布する。(穂ばらみ期まで)
- ハーモニー75DF水和剤は、麦の1葉期～莖立ち期前までの間、スズメノテッポウ5葉期までに散布する。使用後は、消石灰を用い、使用器具を洗浄する。
- ハーモニー75DF水和剤は、播種後～節間伸長前までに散布する。
- 前年、カラスノエンドウやノミノフスマが多発したほ場では、生育期に必ずアクチノール乳剤を散布する。また、トゲミノキツネノボタンが多発したほ場では、2月下旬(麦莖立ち期前まで)にハーモニー75DF水和剤を散布する。

7. 麦ふみ・土入れ

①麦ふみ

- 根張りをよくし、生育をそろえるので必ず行う。
- 本葉4葉展開時から始め、節間伸長開始前までの間に2～3回実施する。
- 早播、暖冬の場合には、効果が高いので出来る限り多く実施する。

②土入れ

- 乾燥が続いて土壌が乾き、茎葉の水分含量の少ない日の午後に行う。
- 土入れは麦ふみ前に行い、麦ふみ直後には実施しない。
- 作溝を兼ねて、1月上旬～3月上旬に2～3回行う。
- 雑草防除、倒伏防止、過繁茂の抑制や湿害防止の効果がある。



3月上旬までに行い、暖冬の年ほど徹底する

8. 収穫

①大麦

- 収穫適期は、穀粒水分25%以下となった時期で、ほ場全体の穂首が80%以上曲がった頃である。
- こぎ回数を上げると粒の損傷が大きいため、規定回転数で脱穀する。

②小麦

- 収穫適期は、手のひらで容易に包皮がはずれ、穀粒が爪でやっとなぐれて、割れた断面が白っぽい粉状になった時である(穀粒水分30%以下)。

適正な施肥と土づくりによる収量と品質の向上を!!

○小麦の穂揃期追肥について

1等Aランクを目指すため、タンパク質含有率を上げましょう。
 穂揃期追肥を行うことで小麦のタンパク質含有率が向上します。

タンパク質含有率目標値
 チクゴイズミ **10%以上**

※注意点

- ①時期がずれるとタンパク質の向上効果が劣ることがあるので、適期に施肥を行ってください。
- ②雑草が多いほ場では肥料の効果が悪くなるので、ほ場管理を徹底して下さい。

○ホウ素欠乏による不稔穂対策

前年にホウ素欠乏による不稔穂が発生したほ場では、微量要素肥料FTEを4kg/10a、基肥と同時に施用して下さい。